

「自由で開かれた国際秩序の強靱性—米国、中国、欧州をめぐる情勢とそのインパクト」 サブ・プロジェクトⅡ：「中国の対外政策と諸外国の対中政策」

プロジェクトの概要

中国が、経済と安全保障の両面において急速にその存在感を増していることが、国際社会全体の秩序の動向を左右する最大の変数の一つであることについて、異論を挟む余地はないだろう。とりわけ 2008 年の世界金融危機を経て、周辺諸国に対する自国の影響力への自信を深めた中国は、海洋において強硬な自己主張を明らかにし、その一方で、周辺諸国との協力体制を強化するための積極的な外交姿勢を示している。近年のアジア太平洋地域の国際秩序は、中国のこうした対外行動と、諸外国のそれに対する反応を大きな要因として展開してきたと言って良い。ならば、我々は、中国の経済的・軍事的な影響力が、国際社会の秩序にいかなる影響を及ぼすかという問題を、引き続き探求していかねばならない。

この問題は、二つの問いを内包している。すなわち、中国が、その経済的・軍事的なパワーを用いていかなる対外行動を採るのか、という問いと、そうした中国のパワーおよびそれに基づく対外行動に対して諸外国がいかなる政策を採るのか、という問いである。中国を変数とする国際秩序の変容は、この二つの動向の相互作用の帰結として生ずる。

したがって本サブ・プロジェクトは、第一に、経済成長の鈍化、権力闘争の激化を含む近年の動向を踏まえ、中国の国内情勢が、いかなる条件下において、いかなる対外政策を帰結することになるかを考察する（チーム A）。第二に、国際秩序の趨勢に影響を与える諸外国（ないし諸地域）の中国に対する認識の変遷と現状を分析し、その規定要因と展望を明らかにする（チーム B）。その上で、中国の対外政策と諸外国の対中政策の相互作用が、国際秩序の趨勢にどのような影響を与えるかを考察する。それを踏まえ、諸外国と協調しつつ、既存の国際秩序とルールを維持し、日本の国益を長期的に確保していくために、いかなる外交政策を採るべきかを提言する。

研究体制

本サブ・プロジェクトは、上記した二つの問いに沿って、二つの研究チーム（チーム A 「中国の国内情勢と対外政策の因果分析」、チーム B 「諸外国の対中認識の動向と国際秩序の趨勢」）を設ける。二つのチームの研究成果は随時共有される。

「中国の国内情勢と対外政策の因果分析」（チーム A）

リーダー（兼サブ・プロジェクト副主査）

高原 明生（東京大学大学院教授／日本国際問題研究所上席客員研究員）

委員

伊藤 亜聖（東京大学准教授）

小嶋 華津子（慶應義塾大学准教授）

西本 紫乃（北海道大学大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター研究員）

高木 誠一郎（日本国際問題研究所研究顧問）

林 載桓（青山学院大学准教授）

山口 信治（防衛研究所主任研究官）

李 昊（日本国際問題研究所若手客員研究員）

渡辺 紫乃（上智大学教授）

委員兼幹事

相 航一（日本国際問題研究所所長代行）

中川 周・日本国際問題研究所研究調整部長

角崎 信也（日本国際問題研究所研究員）

「諸外国の対中認識の動向と国際秩序の趨勢」（チーム B）

リーダー（兼サブ・プロジェクト主査）

高木 誠一郎（日本国際問題研究所研究顧問）

委員

伊藤 融（防衛大学校准教授）

伊藤 裕子（亜細亜大学教授）

倉田 秀也（防衛大学校教授）

庄司 智孝（防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室長）

林 大輔（武蔵野学院大学専任講師）
兵頭 慎治（防衛研究所地域研究部長）
福嶋 輝彦（防衛大学校教授）
伏田 寛範（日本国際問題研究所研究員）

委員兼幹事

相 航一（日本国際問題研究所所長代行）
中川 周（日本国際問題研究所研究調整部長）
角崎 信也（日本国際問題研究所研究員）

研究会の実施状況

「中国の国内情勢と対外政策の因果分析」(チーム A)

第一回会合：

日時・場所：2017年6月7日・於当研究所

テーマ：研究プロジェクト趣旨説明・年間スケジュールの確認

第二回会合：

日時・場所：2017年7月25日・於当研究所

テーマ：「中国の国内政治と対外行動：理論的考察」

第三回会合：

日時・場所：2017年10月3日・於当研究所

テーマ：「現代中国のエリート政治の変容と中国外交」

第四回会合：

日時・場所：2017年12月6日・於当研究所

テーマ：「習近平政権期の中国の資源外交—エネルギー事情と中国国有石油会社の動向—」
「習近平政権下の政策執行監督システム」

第五回会合：

日時・場所：2018年1月12日・於当研究所

テーマ：「第19回党大会と習近平政権の対外政策」
「国家安全委員会は機能しているか？」

第六回会合：

日時・場所：2018年1月19日・於当研究所

テーマ：「中国社会のナショナリズムの現状とそれに対する党・政府の統制能力」
「習近平政権の対非政府組織政策—外交研究への示唆—」

「諸外国の対中認識の動向と国際秩序の趨勢」(チーム B)

第一回会合：

日時・場所：2017年5月22日・於当研究所

テーマ：研究プロジェクト趣旨説明・年間スケジュールの確認

第二回会合：

日時・場所：2017年6月13日・於当研究所

テーマ：「近年における中国の対外政策の動向」

「EU・中国関係の現状と課題」

—包括的な戦略的パートナーシップにおける通商と規範」

第三回会合：

日時・場所：2017年7月26日・於当研究所・於当研究所

テーマ：「米中の狭間でルール本位の秩序にコミットするオーストラリア保守連合政権」
「米中関係と北朝鮮——第3次核危機の力学」

第四回会合：

日時・場所：2017年8月24日・於当研究所

テーマ："The Duterte Administration's Appeasement Policy on China and the Crisis in the Philippine-U.S. Alliance"

第五回会合：

日時・場所：2017年10月23日・於当研究所

テーマ：「ロシアの多極世界観と対中認識」
「極東開発と中露関係」

第六回会合：

日時・場所：2018年1月9日・於当研究所

テーマ：「インドにおける対中懸念の高まり—2017年の展開を中心として」
「ベトナムの対中認識と対応」（庄司智孝・委員）

第七回会合：

日時・場所：2018年1月18日・於当研究所

テーマ：「Europe is turning realistic on China issues」
「米国における対中政策の再検討」

公開シンポジウム「中国の対外政策と諸外国の対中政策」

日時・場所：2018年2月26日・於当研究所

テーマ：「中国社会のナショナリズムの現状とそれに対する党・政府の統制能力」
「習近平政権期の中国の資源外交—エネルギー事情と中国国有石油会社の動向—」
「総書記集権体制の現状とその対外政策への示唆」
「ベトナムの対中認識と対応」
「ロシアの多極的世界観と対中認識」
「対立と協調のはざま—欧州の対中認識：EUとドイツ・イギリスを中心に—」